

数え唄が聞こえる

紫 李鳥

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

その村には子供が一人しかいません。

一人ぼっちの女の子は、いつも一人で遊んでいました。――

目次

数え唄が聞こえる

1

数え唄が聞こえる

いちじく
にんじん
さんしょに
しいたけ
ごぼうに
むかごに
ななくさ
はくさい
きゅうりに
とうがん

その村には子供が一人しかいません。
一人ぼっちの女の子は、いつも一人で遊んでいました。

女の子のお気に入りの場所は、「お化け屋敷」と、みんなが呼ぶ、誰も住んでいないボロボロのおうちです。

大きなモミの木に囲まれたその家は、穴ぼこだらけで、畳も黄ばんで毛羽立っています。

でも、女の子はその家が好きなのです。

だって、そこに行けば一人ぼっちじゃないからです。

女の子には、そこに住んでたみんなが見えるのです。

「……こんにちは」

「あつ、あかねちゃん、いらつしやい」としお君です。

「……こんにちは」

みよちゃんです。

「まあ、あかねちゃん、いらつしやい。さあさあ、中で遊んでつて」お母さんです。

「どれどれ、私も一緒に遊ぼうかのう」

おばあちゃんです。

「みよ、きょうは何して遊ぼうか」

「んとね……ままごと」

「やだね。おれは男だぜ。ままごとなんかしねえ」

「じゃ、なにすんの？」

「うむ……だな……あかねちゃんはなにがいい？」

「私？ んと……おはじきは？」

「あ、いいね。おはじきしよう。みよ、おはじき持ってこい」

「んー！」

「どれどれ、仲間に入れてもらおうかね」

おばあちゃんです。

「ばあちゃんは、みよの横。あかねちゃんは、おれの横。さあさあ、輪になって、輪になつて」

「いちじく〜にんじん〜さんしようにしいたけ〜ごぼうにむかご〜なくさ〜あつ！」

「あつ、あかねちゃん、残念。次、みよ」

「いちじく〜にんじん〜さんしよでしーたけ〜ごぼー、あつ！」

「次、ばあちゃん」

「どれどれ。いちじく……にんじん……次はなんじやったのう」

「さんしようだよ、ばあちゃん」

「そうじゃ、そうじゃ。……はて、にんじんの次は、なんじやったかの？」

「さんしようつて」

「そうじゃ、そうじゃ。……はて、にんじんの次は、なんじやったかの？」

「ふふふ……」

あかねちゃんです。

「ゲラゲラ……」

みよちゃんです。

「アツハツハ……」

としお君も笑っています。

「あら、楽しそうですね。せんべい持ってきましたよ。あかねちゃん、召し上がれ」
お母さんです。

「は〜い」

「ばあちゃん、せんべいでも食ってろ」

「そうだね。じゃ、そうするかね。よっこらしよつと」

「ばあちゃんの代わりに、母ちゃんやって」

「はいはい」

「パリパリっ！」

「プツ！ ハツハツハ……！」

としお君が吹き出しました。

ふふふ……、ゲラゲラ……、フツフツフ……

みんなも笑っています。

おばあちゃんのせんべいを噛む音に、みんなが大笑いです。

——日が暮れると、一人ずつ消えていきます。

「ハッハッハ！」

としお君です。

「ゲラゲラ……」

みよちゃんです。

「フッフッフ……」

お母さんです。

「パリパリっ！」

まだ、せんべいを食べてるおばあちゃんです。

みんな笑顔です。

——おはじきも消えていきます。



8 数え唄が聞こえる



